

横田敏恭（アグリビジネス推進研究協会）

日本農業の将来を考えていくうえでの道しるべは、5年ごとに策定される「食料・農業・農村基本計画」であろう。最初は平成12年に策定され、今回が4度目の基本計画になる。

その後、TPPの大枠合意や農協改革なども進んでいる。TPP関係では、その影響を踏まえて基本計画を見直すこともあるという話であったが、TPPによる国内農業への影響はほとんどない（？）ということで、基本計画の見直しは行われなかった。

TPPがあろうとなかろうと、農業も含め各分野でのグローバル化はますます進んでいる。一方、国内の人口は減少し、それに追い打ちをかけるように高齢化は進んでいく。農業サイドから見れば、消費という面で日本のマーケットは縮小を続けていくことになる。

産業としての農業を考えれば、人口は増加し食料不足も心配されている国際マーケットへ進出するのが大きな出口になる。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあり、国際的な関心が高まっていることから、日本の農産物・食品を売り込んでいくチャンスであろう。

検疫、残留農薬、表示など乗り越えるべき壁はある。さらに日本では取組みが遅れているものにGAPがある。GAPは国際マーケットに乗り込んでいく際の参加資格の一つだ。もちろん国際標準のGAPでなければ参加資格にはならないが。また、食品の原材料としての農産物についても、生鮮と同様に国際標準でなければ競争にならないだろう。

また、日本の農産物の大きなセールスポイントは、高品質であるが、価格面についても考える必要はある。そのために、生産資材価格にも注目が集まっている。農薬も生産資材の一つだが、安全性の確保という視点は絶対に忘れてはならないことであり、安易な価格競争を引き起こさないような施策は大切であろう。

今後の日本農業がどうなるのか心配をする声も聞くが、日本農業は高いレベルの技術と優秀な農業経営者を有しており、産業という切り口で施策を進めれば、大きな可能性を秘めているし、今後の展開には大いに期待している。

---

## What Happens to Future Agriculture in Japan?

### —Agriculture as Industry—

Toshiyasu YOKOTA (Agribusiness Research Association)

The attention to the Japanese agricultural produce is rising. One of the factors will be UNESCO intangible cultural heritage registration.

There are various hurdles in an advance to overseas markets. But when there are high technology and excellent farm management persons in Japan, and Japanese Government follows up appropriately, we'd be able to expect future's development.